

# 藤子・F・不二雄生誕 80 周年に思うこと

経済学部 3 回生 山本翼

自分の価値観を絶対のものだと信じ込むのはよくないと思うんです。……まあ言うは易く行うは難しというか、そんなに簡単なことじゃないのはわかってるつもりです。自分の価値観を完全に相対化しようと思ったら自分が前提としていること全てについてそれを前提としない人に出会わないと難しいだろうし、そもそもそんなことをして幸せに生きられる保証はどこにもない。それにある程度価値観が共有されていないと他人との会話なんて成立しないとも思うし。でもやっぱりある価値観を盲目的に信じて断定的に発言するのが良いとはあまり思えないし、ましてやそれを絶対のものとして他人に押し付けるのは良くない気がします。



なんでこのタイトルでこんな書き出しなのかと思われた方、鋭いです。何故ならこのタイトルは2年前の会誌の「わさドラ 8 年目に思うこと」という文章からタイトルをもじっただけであんまり深く考えていないからです。

まあ F 先生の生誕 80 周年にはまだ間に合っているはずだし、実際その盛り上がりは結構なものだと思います。3D 映画が作られたり、生誕 80 周年を記念したグッズが作られたり。3D のドラえもん、すごく可愛かったです。尋常じゃなかった。最近ドラ DAYS とかも出て 20 歳の大学生が持ってても違和感を持たれないグッズが増えていっている気がするのでありがたいですね。まあ僕高校生の時からハッピーセットのおもちゃ全部集めて部屋に置いたりしてたしそんなに気にしてないつもりですが。だってドラえもん可愛いし。最近キディランドにも躊躇なく入るようになりました。あ、でも小学一年生の定期購読は迷って結局しなかったです。まだまだ修行が足りないですね。精進せねばです。

閑話休題、これでは冒頭の世迷言まがいの妄言はなんだったんだという感じですね、話を戻します。ドラえもんが可愛いって話でしたっけ。まああんまり作品間に優劣を付けるのは良くないと思いますが、「ドラえもん」が藤子・F・不二雄という漫画家の代表作であることは間違いないでしょう。熱烈なファンではなくとも、まったく見たことがないとか、まったく話を知らない人に出会った記憶がありません。本当に多くの人に知られていると思います。

さて、先程も少し触れましたが、そんな「ドラえもん」という作品の歴史において大きな意味を持つであろう出来事が今年の8月にありました。「STAND BY ME ドラえもん」の公開です。正直宣伝だけ見た段階では、今はちょっとドラえもんから離れている、いわゆる普通の人を対象としてるんだろうな、という認識で観に行こうと思ってました。“~~ドラ泣き~~”ってどうなんだとは今でもちょっと……。でも実際に観て、少なくとも僕は楽しめたし、また観たいと僕は思いました。何より3Dのドラえもんが可愛かったし。

ただやっぱり、ドラえもんほど多くの人に愛されている作品で新しいことをしようとするとしても“俺の知ってるのはこんなんじゃない”っていう人が現れるのはわからなくもないです。まあそこで“天国のF先生が泣いている”とか言っちゃうとちょっとどうかと思いますけど。あと声優陣を始めとしたスタッフの交代を変な方向に引きずってるのもどうなんだろうって思います。僕自身ともすればアンチ“アンチわさドラ”的な思考に陥りがちなので気を付けないと、とは思いますが、僕はスタッフ交代にもプラスの効果があったと思いたいし、新しいことに挑戦するのをあんまり否定したくないです。それを天国のF先生がどう思われるかはわかりませんが、“俺の知ってるドラえもん”をずっと続けるのはドラえもんにとってプラスではないと思うんです。

まあそれでも、“俺の知ってるドラえもん”っていうのを語る人っていうのはきつと、ある程度はドラえもんが好きな人なんだと思います。ドラえもんに限ったことではないですが、好きなものだからこそ自分の中である程度それに対するイメージが固まっているんじゃないかと思うんです。僕自身、ドラ DAYS とか HEARTYDORA とかのシリーズが大好きでもっと展開してほしいとも思うんですが、それだって僕のドラえもん観に基づいた偏った意見だと言われればそうかもしれないと思います。

とはいえ、作者がご存命でない以上、誰が何を作ろうとも二次創作にしかならないし、F先生以外の誰かのドラえもん観と完全に切り離された作品が作られることはない。今のドラえもんは、“F先生のドラえもん”と、そこから形作られた“誰かのドラえもん”の総体としてしか存在し得ないとも言えるはずです。

となると、僕たちがすべきは、“自分のドラえもん観を持つのも良いけどそれが絶対ではないことを心に留め、他人のドラえもん観も頭ごなしに否定することなく尊重する”、これに尽きるんじゃないかと思います。「ドラえもん」という作品にいる多くのファンができるだけお互いに嫌な思いをすることなく、かつこの先もより多くの人に「ドラえもん」を楽しんでもらうためには、それがいいんじゃないかと思うんです。

非常に長くて分かりづらい文章になってしまいましたが、これが今僕が思う結論です。最後になりますが、この長文を読んでもくださった方に感謝するとともに、ここで僕が感じた疑問を提示して終わりたいと思います。

この文章、僕の価値観を押し付けてると思いませんか？

